

第3回斜里町再エネ導入推進協議会(最終回) 結果要旨

1. 日時 令和4年12月20日(火) 16:00~17:20
2. 場所 斜里町産業会館2階 大ホール
3. 出席者
- ・委員:12名中10名出席(別紙)
 - ・事務局(斜里町):増田総務部長 結城環境課長
環境課生活環境係 塩・村田
 - ・事務局(北海道環境財団):安保環境事業課長 山本環境教育課長
環境事業課 高橋
 - ・事務局(株ドーコン):資源・エネルギー企画室 佐藤
 - ・傍聴者:3人:北海道オホーツク総合振興局 環境生活課 2名 他

◇合計:21名

4. 結果要旨
- 別添次第の通り進み審議を終えた。
 - ビジョン内容を、委員からの意見及び事務局からの追加事項を踏まえ、取組の追加や文言整理を行う事とした。
 - これまでの議論内容を踏まえた、ビジョン内容について出席委員全体で承諾した。

5. 会議結果 下記のとおり

<会議結果>

1. 開会

- ・ご参集頂きまして、ありがとうございます。本日は、3回目の再エネ導入推進協議会であり、事前説明であったと思いますが全3回予定の協議会で今回が最後となります。本日もよろしくお願いたします。(会長)

2. 報告・協議

1. 再エネ導入戦略について

- (1) 脱炭素戦略全般の記載内容にかかる確認について 資料1
(コンソーシアム 北海道環境財団 安保 氏)

※資料1 を用い報告を行った。

(説明要旨)

- ・本戦略は2050年ゼロカーボンの実現に向けて、町民・事業者・斜里町が協働して地球温暖化対策に関する施策を推進していくことを目的とする。

- ・斜里町全域を対象として、2050年の長期目標に置き、2013年を基準として目標年度である2030年までに何をしていくのか、整理をして進めていきたい。また、中間年度である2026年くらいには必要に応じて見直しすることを明記したい。
- ・対象とする温室効果ガスは、温室効果の影響の大部分を占めている二酸化炭素とし、産業部門、業務その他部門、家庭部門、運輸部門の4部門を対象として整理をしたい。
- ・斜里町が環境基本計画に掲げる9つの基本施策について、町民アンケートにより満足度と関心度を把握したところ、「再生可能エネルギーの導入促進」「省エネルギーの推進」「環境を守り育む人づくりの推進」の3項目については、大事だと思うがまだ取組が不十分という町民の意向が示された。本戦略はまさにここに働きかけるものであるため、基本施策を後押しする意味でも非常に重要な計画と位置付けられると考える。
- ・同じく町民アンケートにより、斜里町のゼロカーボンシティの方向性について町民意向を尋ねたところ、「大規模な発電設備を建設し、効率的な発電を行うこと」については、相対的に共感の割合が小さかった。したがって、本戦略においても大規模の開発行為が伴う再エネの導入は、自然との調和に留意し、慎重に検討する必要があるという方向でまとめていきたい。
- ・国の目標である46%削減のためには、自然減を除き64,706t-CO₂を削減することが必要であり、省エネで約37,000t-CO₂、再エネの導入で約27,000t-CO₂減らすということを前回の協議会でお示したところ。非常に大きな削減目標だが、太陽光発電や地中熱利用、森林吸収量などを見込めば、実現不可能な数字ではないと考える。
- ・斜里町としては、国の目標(46%)を踏まえつつ、北海道の目標(48%)の実現を見据え、「46%以上のCO₂排出量を削減すること」を目標として整理をしていきたい。

(2) 脱炭素ビジョン内容にかかる確認・協議について 資料2 資料2参考

(コンソーシアム 北海道環境財団 安保 氏)

※資料2 資料2参考 を用い報告を行った。

(説明要旨)

- ・前回までは斜里町を6区分に分けて、どういった取組ができるかを協議したが、その一覧を文章にしたものが資料2となる。
- ・「1. 国立公園およびウトロ地域」では、「知床の大自然と調和する『SHIRETOKO ZERO CARBON』の実現」をコンセプトとし、計画や生態系保全と脱炭素が両立する再エネの活用、省エネや森づくりなどの知床の自然と調和を重視した脱炭素の推進を提案したい。
- ・前回の協議会で、地中熱についても明記するべきとの指摘があったため、「景観や自然環境の保全に配慮した太陽光発電が行われ、エネルギーの地産地消が進んでいます。」という記載については、地中熱利用についても追記することで修正したい。
- ・「2. 中心市街地」では、「地域エネルギーを活かした安心安全なまちづくりの実現」をコンセプトとし、地域のエネルギーを十分に活用し、防災能力を高めることで、住みよいまちづくりを目指していくという想いを込め、提案したい。
- ・「公共施設や学校への太陽光発電や蓄電池の設置が進み、環境教育にも積極的に活用されています。」の記載についても、地中熱利用を追記することで修正したい。
- ・前回の協議会で、将来的な可能性も含め、風力についても明記するべきとの指摘があったため、「上水道設備を活用したマイクロ水力発電の設置等、環境保全を行いながら豊富

な水資源をエネルギーとして活用する取り組みが進んでいます。」については、「生態系保全と両立する次世代型の風力発電」を追記することで修正したい。

- ・「3. 中斜里地域」では、「町民・事業者・行政の連携が強化され、地域に裨益^{ひえき}する再エネの普及」をコンセプトとし、町民・事業者・行政の連携強化により、地域の中で利益が回るような再エネが普及していく未来像を提案したい。
- ・斜里町の基幹産業である「4. 農業」、「5. 漁業」については、効率化という視点から目指すべき将来像を整理した。農業については、「脱炭素実現による働きやすい生産環境の実現」、漁業については、「脱炭素と両立する資源を守り育てる漁業の定着」というコンセプトを提案したい。
- ・「6. 地域間連携」では、「地域間連携により知床・東オホーツク圏域としての脱炭素の拡大」をコンセプトとし、知床半島と東オホーツク圏域として明記したうえで、電力融通や交通分野等の取組が連携により進んでいく未来像を提案したい。
- ・これらの6区分の取組をロードマップとして整理したものが資料2参考となる。なお、こうした取組はSDGsの視点からも評価、記載することが推奨されているため、各区分の取組をとおしてSDGsのこういった取組に寄与しているのかを併せて整理した。

(質疑)

- ・各区分のコンセプトは確定ということなのか。
→この場でご意見があれば、それを踏まえて整理し直したいが、特にご意見がなければ、これをベースに進めていきたいと考えている。
- ・「4. 農業」のコンセプトで、「実現」という言葉が重複しているのが気になった。先端技術の導入により働きやすい生産環境がもたらすものが脱炭素社会の実現のような文言が適切かと思う。
→脱炭素という言葉は入れたいが、ご指摘のとおり「実現」が重複してしまっているため、こちらは再度検討したい。
- ・「1. 国立公園およびウトロ地域」の交通分野の脱炭素化に記載されている「電動の自動運転バス」という言葉には、マイカー規制という意味合いも含まれているイメージなのか。
→今回は、前回例示した個別の取組を記載するというよりは、全体のもっと大きな取組というイメージ。今後の広がり期待して、色々な可能性を含んだ書きぶりとしている。

(3) 2030年の目標実現に向けた町の取組について 資料3

(環境課 塩)

※資料3 を用い報告を行った。

(説明要旨)

- ・1回目、2回目の協議会および事前説明での意見を基にまとめたものが資料3となる。町民、事業者、町が協力して実施していくにあたり、まず行政が何をするのかということをもとめたもの。
- ・目に留まりやすいのは公共施設への再エネの導入。どこまで実現できるかは未知数ではあるが、徹底した省エネと再エネを組み合わせた取組を進めていくというのを基本の柱として掲げている。
- ・ゼロカーボンパークの実現に向けた検討・取組の推進については、行政として進めてい

きたい項目を記載している。

- ・斜里版気候環境教育の推進については、これまでも COOL CHOICE（クールチョイス）の取組を通して子ども向けの環境教育を実施してきたことや、学校教育においても小学校から高校まで、フィールドを生かした教育が行われているため、それについても重点として行っていくというもの。
- ・公共施設の大規模改修や新築の際には、太陽光や地中熱について十分に検討を実施していく体制をとっていききたい。ただ、既存施設への屋根置き太陽光発電については、耐震・強度の問題があるため、なかなか難しいところだが、地上に設置する場合においても景観に配慮し、慎重に検討を進めていききたい。
- ・斜里版地域マイクログリッドの検討については、利用時間帯や曜日の異なる施設間でうまく電力を融通し合う取組を進めていくというもの。
- ・地域エネルギー活用のための仕組みづくりの検討については、卒FITの電力をいかに地域でまわせるかという仕組みづくりに視点を置いて進めていければというところ。
- ・脱炭素を軸とした近隣市町村との連携強化については、町単体で行うのではなく、広域連携で取組を進めることで効果を大きく、また発信力も強めていくという狙いで記載をしている。

(質疑)

- ・国立公園内の施設に省エネ・再エネの導入を考えるにあたり、雪を利用した冷房設備のようなものを自然センターに設置するなど、観光のひとつとして触れ合える場所があれば、観光の目玉になるし、町民の勉強の機会にもなるのではないかと。少しそういった遊び心もありながら、効率化を考えていくものがあるといいのでは。
- 観光+脱炭素+教育となれば、ウトロ地区の特色になれるかと思う。ただ、実現するのは難しいとは思いますが、効率だけを求めるのではなく、観光や教育の付加価値をつけるという視点も大事かと思う。

2. ビジョン（絵）について 資料 4

(コンソーシアム 北海道環境財団 安保 氏)

※資料 4 を用いて説明を行い委員全員に意見を求めた。

(説明要旨)

- ・各区分のコンセプトやまちの具体的な取組を絵に落とし込んだビジョンの下書きが資料 4。今後、子ども向けにパネルとして取りまとめていくため、内容についてご意見をいただきたい。

(委員一人ずつの質問・コメント)

- ・船のタンクは合成燃料というイメージなのか。
- これは主に日本海側（内海）で行う養殖をイメージしたイラストかと思うので、これについては適切ではないため、削除する方向で考えたい。
- ・「SHIRETOKO ZERO CARBON」という表現がわかりにくいいため、短い言葉でわかりやすい表現が他にあれば。
- なかなか難しいところだが、「脱炭素」のように漢字で記載すると具体的に過ぎる部

分もあるため、ここは事務局における協議にお任せいただきたい。

- ・ウトロ側からの視点は初めて見たが、いいと思う。
 - ・自然センターの取組がいくつか出てきていたので、センターを記載した方がわかりやすいのではないかと。また、知床五湖で森づくりをしているように見えるため、そこは修正した方がいいのではないかと。
 - ・実際にある斜里の建物が1つ、2つあれば、イメージが付きやすいのではないかと。あとは、送電線が目立ち過ぎるように感じる。
- 送電線の存在感が強いと感じているため、こちらは減らしたい。具体的な建物については、可能な範囲で調整したい。
- ・ウトロ地区が街のように見える。これほど大きな建物はないのと、農業地域が全くないのも気になる。
 - ・子どもたちにも見てもらいたいのであれば、もう少しわかりやすい表現の方がいいかと思う。コンセプトは仕方がない部分もあるかと思うが、説明文のところはわかりやすい言葉に置き換えた方がいいのではないかと。
- 確定ではないが、絵一枚ですべてを伝えるのは難しいため、絵の内容をわかりやすく説明するパネルと組み合わせることで、小学校中学年くらいにも理解できるような内容にしていきたい。
- ・可視化できるかは別として、絵の中に地熱や風力については記載されていないため、太陽エネルギーや風、熱の可視化も子どもたちに理解してもらうためには記載した方がいいのではないかと。
 - ・イラストの絵のタッチは最終的には統一するのか。例えば、オジロワシはここまでリアルに描かなくてはいいいのではないかと。
- 最終的に描かれている人物のテイストに合わせて調整していきたい。

全体を通して

- ・意見無し
- ・意見がない様なので、協議を終え戦略の承認としたいが、宜しいでしょうか。

→良い。

※今日出た意見を反映させるなどの軽微な変更を含め、戦略全体の承認を全体で確認した。

3. その他

(事務局より)

- ・本日いただいたご意見については、こちらで再度、修正したうえで、皆様に再度メールや郵送で確認をさせていただきたい。今回は大枠で承認いただいたということですが、完成に近いあたりで改めて確認させていただきたい。
- ・最終的には行政内で調整をし、行政案とする。本協議会は斜里町の環境審議会に位置付けられているため、本協議を環境審議会で審議のうえ、承認いただく。それをもって、議会への報告となるため、最速で今年度内、もしくは来年度の早い段階で成案化という運びとなることをご了承いただきたい。また、成案化された際には、ホームページ等で共有させていただきたい。

(委員一人ずつの感想)

- 今後の具体的な話についても何をどこまでどういった手順で進めていくのかというところを聞ければよかったかと思う。最後に資料4について、街のシンボルでもある斜里岳が平らに見えるので、もう少し山頂をすどく描いてもらえれば。
- 立場上、観光協会ということで、こういった案が出来て、斜里町はこういう取組をしているということを広く観光に訪れた人たちにも伝えられるようにしていきたいと思う。
- 知床らしい取組として、ゼロカーボンパークの実現に向けた構想もあるため、知床財団としても地域と連携しながら、出来ることを進めていきたい。
- 2回目の時の素案と比べると、スローガンがわかりやすくなっていると感じる。金融機関としてサスティナブルローンなどの金融支援でお手伝いできることがあればと考えている。
- 一社だけではできない取組も地域間連携やオホーツクエリア全体として考えることが新鮮で、それぞれが持っているインフラを生かし、連携を取りながらゼロカーボンに向けた動きができればいいのかと思う。
- 再エネ事業者として本協議会に参加することで、今後の会社の方向性を見出すうえで気づきもあった。本協議会で得られた結果は、町内事業者と行政の連携が必要と強く感じているため、いかに町民に落とし込めるか、まずは自身や家庭での小さい活動から始めていきたい。
- 今回ビジョンができたということで、考えていただくひとつの手がかりになればと思うし、今後も個人、事業体、行政でそれぞれ考えていかなければならないと思う。家庭や事業者で何ができるのか、行政の後押しもぜひお願いしたい。
- 短期間の間に素晴らしいビジョンを策定していただいたということと、改めて斜里町が持つポテンシャルについて気づかされる機会となったと思う。これを実現させていくためには、具体的なアクションプランを策定していくと思うので、我々もぜひ参加して、皆様と協議しながら実現に向けて取り組んでいきたいと思う。
- まだ本当のスタート段階なので、実際はこれからが本番なのかと思うが、何かできることがあれば、ぜひ推進に向けて協力できればと考えている。
- 世界中の課題となっているので、より多くの人に関心をもっていただき、少しでもクリーンな社会づくりが進んでほしいと思う。

(事務局)

- 全3回という非常にタイトなスケジュールの中で、ご議論いただきまして、ありがとうございました。ビジョンという大きなくくりでまとめるということで、斜里らしさや特徴というところについて、なかなか具体的にできない部分もあったかと思いますが、想いとしては盛り込まれたのかと思います。
- 本戦略に記載されていることも、今後の技術進歩によっては、すんなりと実現しない部分もあるかとは思いますが、一方で遊び心や想いなど、ここには書かれていない部分もたくさんお聞きしたので、そういったことを忘れずに、柔らかな頭で脱炭素に向けて進めていきたいと考えております。

- ・地域として取り組む内容となるため、どう具体化、実現していくかということは、またこれからがスタートになるかと思いますが、非常に短い中でまとめていただき、ありがとうございました。

以上（17：20 終了）